

NBDCヒトデータベース運用開始から1年を迎えて

○川嶋実苗、三橋信孝、箕輪真理

科学技術振興機構(JST)バイオサイエンスデータベースセンター(NBDC)

生命科学・生物医学・環境科学分野を中心に論文のOA化が進められてきたことに加え、2012年頃からは論文に使用したデータの研究者間における共有化が世界中で進められている。米国のNIHや英国の研究助成機関ではData Sharing Policyやそれに類する指針を公表し、研究費申請時にはData Sharing Statementの提出をより厳密に義務付けるようになってきた。データ共有の動きは、ヒトに関するデータへも波及し、2013年にはGlobal Alliance for Genomics and Healthの活動が始まり、セキュアな環境下でのヒトデータの共有について、4つのワーキンググループで検討を続けている。

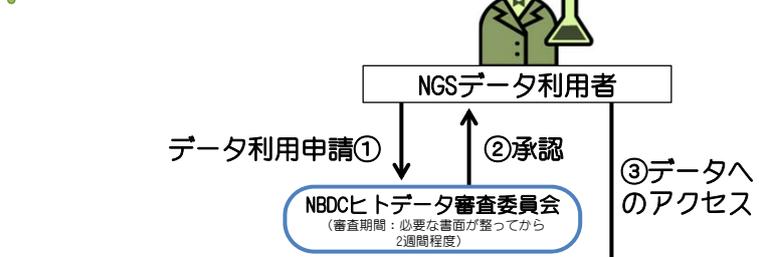
DNA Data Bank of Japan (DDBJ)との協力体制の下、2013年10月1日より運用を開始した『NBDCヒトデータベース』が1周年を迎えた。1年間のヒトデータの共有化促進活動の経験から、ヒトデータベースへデータ提供の際に抑えておきたいポイント、および、これまでの申請状況を報告するとともに、データ提供方法の相談を受け付けることで、今後の研究におけるデータの利活用の発展につなげていきたい。

NGS*データ提供の流れ

*NGS以外にも、SNP Chipや発現アレイ等のデータもこのフローに準じます。画像データや音声データ等はデータ格納先サーバーが異なります。



NGS*データ利用の流れ



<データ提供申請のポイント>

- ①インフォームドコンセントの説明・同意文書の中に**データベースへデータを提供し、研究者間で共有する旨**が記載されていること。
- ②データベースへのデータ提供および研究者間での共有について、**所属機関の倫理審査委員会において承認されていること**。
- ③ICに基づいた個別の制限事項(ポリシー)があれば提供時に提示のこと。

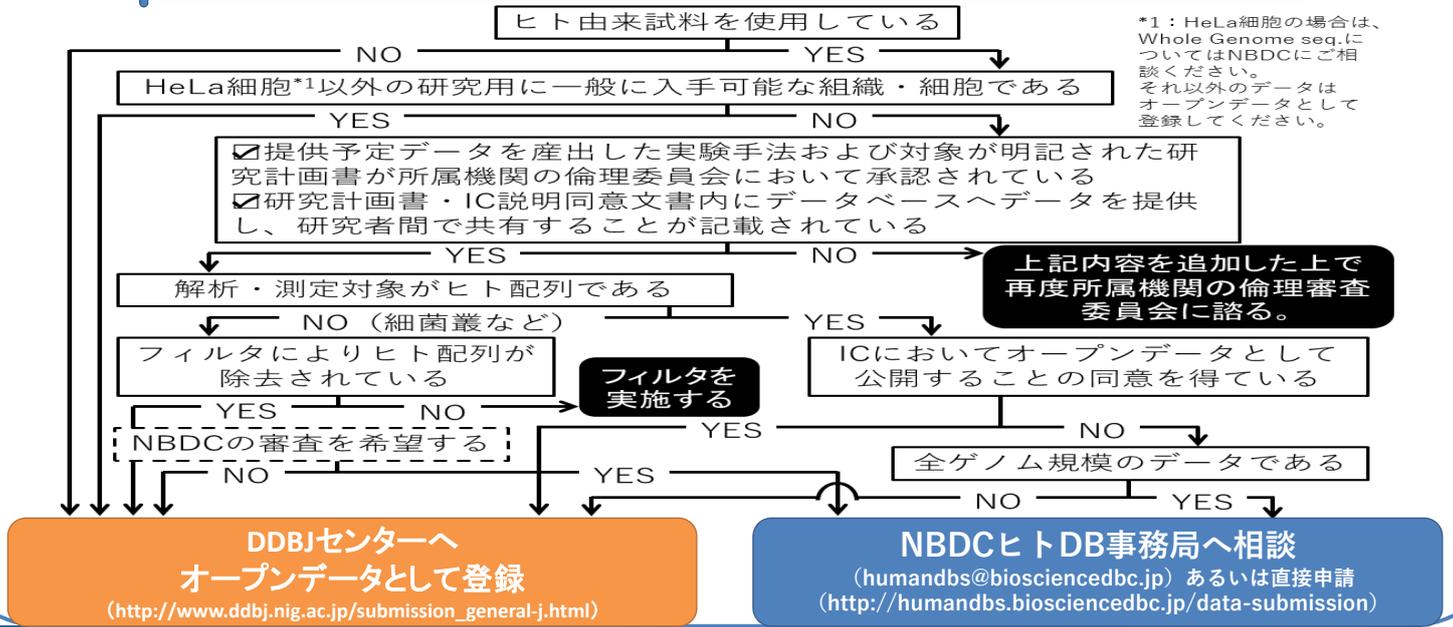
<http://humandbs.biosciencedbc.jp/data-submission> をご参照ください。

<データ利用申請のポイント>

- ①利用を希望するデータに**関係した研究の経験があること**。
- ②当該データベースのデータを研究に利用することが、**所属機関の倫理審査委員会において承認されていること**。
- ③申請するデータの制限タイプに**適したセキュリティ対策**がなされていること。
- ④データセットに特化した**制限事項(ポリシー)**がある場合は、準拠した研究であること。

<http://humandbs.biosciencedbc.jp/data-use> をご参照ください。

NGS 由来データ等を登録する際の確認フロー(2014年10月16日)



*1: HeLa細胞の場合は、Whole Genome seq.についてはNBDCにご相談ください。それ以外のデータはオープンデータとして登録してください。